

C.COM

広島 の 生協

平和とより良き生活のために

JAN.2015 VOL.49

広島県生活協同組合連合会
発行 2015 年 1 月 25 日



PEACE

特集1 「世界平和に向けて」

「新春トップセミナー&対談」…………… 1 - 6

- ・ 式典
- ・ 記念講演
広島平和文化センター 小溝泰義理事長
- ・ NPT 再検討会議に向けて「対談」
広島平和文化センター常務理事 湯浅敏郎
広島県生協連専務理事 高田公喜
- ・ IYC 特別研究会「平和学習会」

特集2 広島豪雨土砂災害報告

「広島豪雨土砂災害支援」…………… 7

- ・ 支援の報告（募金の報告・贈呈式）

特集3 福島視察報告

「福島のその後…」…………… 8

- ・ 広島県生協連 福島守 事務局長
会員だより・トピックス
- ・ 協同組合まつり（日立造船因島生協）… 9
- ・ 広大生協霞キャンパスオープン …… 10
- ・ 消費者のつどい …… 11
- ・ 広島県編集責任者会懇談会
（マスコミ懇談会）
- 事務局だより …… 12・13
- ・ 中堅職員研修会・理事会報告 …… 12
- ・ 組織委員会報告 …… 13
- ・ 地域活性化研究会報告
- ・ 福祉・介護委員会報告
- ・ 2015ピースアクション in ヒロシマ
第1回実行委員会
- 「日々のことから」…………… 14
- ・ NHK 大型企画開発センター
ディレクター 夜久恭裕
- ・ 広告・編集室から …… 15

特集 世界平和に向けて

新春トップセミナー開催



祝辞を述べる 香川洋之助会長



祝辞を述べる川上俊幸 県民生活部長



挨拶する岡村会長理事

2015年は、広島に原爆が投下されて70年という節目の年、また、NPT再検討会議がニューヨークで開かれる世界平和にとって重要な年でもある。広島県生活協同組合連合会は、『平和』に向けて、新しい年のスタートを切った。

正月1日早々寒波到来で市街地の積雪を見た広島市、その寒さが残る1月8日、広島県生活協同組合連合会は、恒例の『2015年新春トップセミナー』を開催しました。

会場となった広島市基町のメルパルク広島「平成の間」は、130名を超える出席者で埋まり、新春らしい雰囲気になりました。

午前10時、第1部の「式典」は、広島県生協連岡村信秀会長理事の挨拶に始まりました。

岡村会長は、お礼と感謝の言葉を冒頭で述べ、昨年の広島市を襲った集中豪雨に触れ、異常気象や地球温暖化が地球規模での深刻な問題となっていることを強調します。また、国際協同組合同盟が、世界各国のこれまでのエネルギー政策の誤りを指摘し「再生可能エネルギー経済の重要性を提起し、協同組合が『エネルギーの地産地消』に積極的に関与することを紹介しました。

また、この新春トップセミナーの主題である『平和』について、本年が広島に原爆が投下されて70年という節目を迎え、NPT再検討会議(※)がニューヨークで開催される重要な年であることを述べます。そして、

平和に対する被爆地ヒロシマの市民エネルギーの高まりが、世界中に強い「発信力」を持つことを唱えました。そして、広島市・県民、生協連などを含めた団体と個人の地道な努力によってオール・ジャパンの展望が見えてきたことも強調。誰もが安心して暮らせる持続可能な地域コミュニティの再生に向けて強い決意を披瀝し、挨拶を終えました。

続いて、この日のご来賓4名を代表して、広島県環境県民局長川上俊幸県民生活部長、広島県農業協同組合中央会香川洋之助会長のお二方が祝辞を述べられました。祝辞終了後、司会者によって来賓の一人ひとりが紹介され、その後来賓一同が退席され、2015年新春トップセミナー第一部「式典」は、滞りなく終了しました。

NPT（核拡散防止条約）再検討会議

※「NPT（核拡散防止条約）」とは、1970年に発効した、核兵器の拡散を防止するための国際条約。国連加盟国193カ国中、190カ国が加盟。この条約の運用状況を検討するために、5年に1度、再検討会議を国連本部で開催。

特集1 新春トップセミナー「記念講演」

『ヒロシマのメッセージ』を

世界に、そして、未来世代に

●プロフィール

1948年、千葉県生まれ。法政大学法学部卒。1970年外務省入省。国際原子力機関（IAEA）事務局事務局長特別補佐官（ウィーン）、条約局法規課専門官、条約局法規課法規調整官、総合外交政策局軍縮不拡散・科学部不拡散・科学原子力課国際原子力協力室長、在ウィーン国際機関日本政府代表部大使、駐クウェート国特命全権大使を経て、2012年11月退職。2013年4月、（公財）広島平和文化センター理事長に就任。



広島平和文化センター 理事長

小溝 泰義

小溝氏は、その後国際原子力機関（IAEA）に所属し活躍した経歴を持っています。原子力の平和利用の促進、軍事利用への転用防止を目的とする機関に所属していただけに、小溝氏は『平和』について、実に熱い思いをもたれているようです。

「平和と核兵器廃絶を目指す原点の地・広島での活動に、重い責任を感じています」といっ

2015年は世界で初めてヒロシマに原爆が投下されて70年となり、ニューヨークにおいてNPT再検討会議が開かれる、世界平和にとって重要な節目の年でもあります。

2015年新春トップセミナーは、そうした節目の年にふさわしい、広島平和文化センター理事長小溝泰義氏をお迎えしました。

1970年に外務省入りした

た熱い思いを心のうちで高めながら、小溝氏は自らの経歴を語り、（公財）広島平和文化センターの役割を説明されます。

小溝氏は、広島の言い知れぬ悲劇と苦闘の中から生み出された「あのような悲劇は誰にも繰り返させない」との人間の深い心情から発する尊いヒロシマのメッセージは、世界の人々が厳粛な気持ちで受け止めるべき、未来に向けての重要なメッセージだと強調。その尊いメッセージを世界に、また、未来世代に誤りなく伝え広めるために、何をすべきかを考え、被爆者の方や、平和活動に取り組む方々と対話を重ねていることを主張します。そして、言語を絶する体験からの被爆者の方々の非核の訴えには、強力なインパクトがあり、この強力なメッセージを世代を超えていかに継承していくかが、自分たちの課題だと力説します。そして、被爆者の方達の思いを世界に伝えていくには、日本人だけの一方通行のメッセージでは不十分。世界の人たちに広島に来ていただき、「ヒロシマの深いメッセージがダイレクトに世界に届く仕組みを、2015年被爆70周年を機に、作り上げたい」と、記念講演を締めくくりました。



NPT 再検討会議に向けて「対談」

オールジャパンで、核兵器廃絶のシナリオを…



広島平和文化センター
常務理事
湯浅 敏郎

年国連経済社会理事会の NGO に登録)。その加盟都市は、ここ数年で飛躍的に増え（加盟数：世界 160 力国・地域の 6,490 都市）、世界中から注目・期待される平和団体組織へと発展しています。広島県生協連は、平和首長会議の活動に賛同し、全国の生協と連携をとりながら、微力ながら“平和”の取り組みに参加させていただいています。そうした経緯の中で広島県生協連は、2015 年を、広島平和文化センターとの関係性をさらに発展させ、生協連合会の活動を基軸に、多くの広島市民はもとより全国の皆さんが、広くかかわれる『平和活動』を創造していく年にしたいと考えています。

平和文化センターと『平和文化』

高田 2015 年は被爆 70 周年の年であり、またニューヨークで NPT 再検討会議が開かれます。この節目に、ヒロシマから被爆者の悲願である「核兵器廃絶・恒久平和」を世界に向けて発信する決意、について語りたいと思います。

湯浅 湯浅常務が広島平和文化センターに就任されたのは 2011 年 7 月、3 年と 6 カ月になります。包括的ですが、平和活動の仕事に対してどういった感想をお持ちですか。

湯浅 市の活動や仕事はたくさんあります。その中で「平和」の仕事は、市政において非常に重要な分野の一つです。私自身、とてもやりがいのある仕事に携わることができたと思っています。

高田 数ある自治体の中で、「平和」を発信する都市は、世界を見てもそんなにはありません。とくに広島市は、世界で最初の原爆の投下があったまちで、他の自治体にはない『平和文化センター』という市の外郭団体が存在します。名称の平和文化センターですが、文化が含まれているのはどのような意味が…。湯浅 そうですね、団体の名称である「平和文化」には、被爆

都市ヒロシマとして悲願である「核兵器廃絶と世界恒久平和の実現」に広くいろいろな叡智を集めて取り組む、という意味合いが根底にあると思います。取組を進めるためには平和の「文化」が必要です。また、取組の過程において平和の「文化」を生み出していくことも必要であると思っています。

平和首長会議

高田 より広義な意味を含んだ『平和文化』という考え方ですね。

今日、世界中で戦火や争いが絶えないという現実があります。平和文化センターを進めておられる「平和首長会議」の国内加盟率が、湯浅さんが就任されてここ 3 年急激に上がりました。その辺の背景と取り組みについてお聞かせください。

湯浅 平和首長会議は 1982 年に設立された組織です。日本の都市では、広島市と長崎市だけでなくやってきましたが、広く世界に核兵器廃絶を訴えている中で、「唯一の被爆国である日本国内の都市が広島、長崎だけではないか」という声が上がりました。そこで、「被爆国である日本国内の首長の結集が重要である」という考え方のもと、

2008 年の 2 月から国内の都市に加盟の呼びかけを始めました。

2011 年の 4 月の段階では 55・1%という国内加盟率でしたが、2015 年の 1 月には 88・2%と大きく上昇しました。約 33 ポイントの増加となり、国内の加盟が進みました。

その背景ですが、私たちは継続的な加盟要請を未加盟自治体に向けてやってきました。加盟をお願いする文書を送り、私をはじめ職員が直接自治体を訪問して加盟のお願いをさせていたことを行ってきました。

高田 そういう努力がなされていたわけですね。

湯浅 加盟に向けて生協の後押しはとても強い力になりました。全国各地で、生協の皆さんが直接未加盟自治体を訪問してくださいました。また、各都道府県の市長会や町村会のご協力もいただいています。

いろいろな形で加盟要請をしていく中で、平和首長会議の理念を理解していただいて、「核兵器がいかに非人道的なものであるか、この世にあってはならないものだ」という考えが多くなってきた。加盟率が高まったのは「共に力を合わせて核兵器のない

NPT 再検討会議に向けて「対談」



オールヒロシマ・ナガサキ、 NPT 再検討会議に向けて

2015 年は、原爆被爆 70 周年の節目の年です。そして、NPT 再検討会議に共に参加して、被爆者の悲願である核兵器廃絶、恒久平和を発信し続けるヒロシマから、世界に向け行動する年でもあります。公益財団法人広島平和文化センターは、市民の皆さんや諸団体と連携をとり、被爆者に寄り添いながら、平和の活動を推進しています。広島平和文化センターが事務局を務める「平和首長会議」は、1982 年 6 月 24 日、ニューヨークの国連本部で開催された第 2 回国連軍縮特別総会において荒木武・広島市長（当時）が提唱した「核兵器廃絶に向けての都市連帯推進計画」によって誕生した組織です（1991



広島県生活協同組合連合会
専務理事

高田 公喜

平和な世界を目指している」という意識が高くなったことが大きな要因であると考えています。

改めて、生協の皆さんのご支援に心から感謝申し上げます。

加盟 100% を目指して

高田 生協では「平和」というのは、思想信条を超えて人として平和を尊ぶ」ということで結集したいという思いがあります。しかし実態は、多くの市民にとって「平和」というのは取っ付きにくい、また、少し色眼鏡がかかっている、という認識も…。

私も生協が「平和首長会議」に賛同する理由は、一つは「多くの人たちが住む都市を核兵器の標的にするのはやめましょう」「全ての国土を標的にしないでくれ」ということですね。これは日本のすべての人に関係しているということです。

もう一つは、平和首長会議が「核兵器廃絶の工程表」をつくられていることです。これが素晴らしいと思うのです。「2020 年までに核兵器を廃絶しよう」と、只単に訴えるだけでなく、期限を設けてそこに向けてみんなで頑張っていく、ということがあります。

もう一つ付け加えるならば、自分の意志を伝えることのできる「核兵器禁止条約」の締結に

向けた署名活動に取り組まれていたことでもあります。この 3 つですね。それらが生協組合員の賛同を得て、多くの生協がこの「平和首長会議」に賛同しているということですね。

湯浅 私たちは、国内市区町村 100% の加盟を目指しています。まず、何とか近いうちに 90% に到達できるようにしたいと思っています。現在の加盟率は 88・2% ですが、実は、加盟自治体の人口ベースだと既に 94% に達しているのです。間接的ではありますが、日本の大多数の人々が、平和首長会議の取組に賛同してくださっていると考えると、それは日本国政府を動かす大きな力になります。

核兵器廃絶のシナリオ

高田 2015 年は被爆 70 周年、被爆者の方々の平均年齢が 80 歳に到達するであろうといわれています。ラスト・オブ・ジェネレーション、被爆者の方がどんどん亡くなっていける、ということに私たちは深い悲しみを覚えます。

平和首長会議で、核兵器廃絶のシナリオをどう考えられているのかお聞かせください。

湯浅 平和首長会議においては「2020 ビジョン」をつくって取り組みを進めています。

す。先程お話がありました「2020 年」は、一人でも多くの被爆者の方がご存命のうちに「核兵器のない世界」をつくらうという目標年次です。その目標に一步でも二歩でも近づけるよう、国連や各国政府への要請活動などに積極的に取り組んでいます。今日、核兵器の非人道性に焦点を当て、その非合法化を目指そうという動きが活発になっていきます。そうした動きがさらに加速するよう、平和首長会議としても取り組みを強めたいと考えています。

高田 平和首長会議に加盟されているのはどの国の都市が多いのでしょうか。

湯浅 いちばん多いのは日本ですが、その次がイランです。それからイタリア、ドイツ、ベルギーの順となっています。

高田 「核武装」の懸念のあるイランですが、どうしてイランの都市が多いのでしょうか。

湯浅 イランは、イラン・イラク戦争（1980 年～1988 年）でイラクによって化学兵器（毒ガス）が使われ、多くの被害者や犠牲者を出したという歴史があります。テヘラン平和博物館という施設がありますが、その関係者が毎年 8 月 6 日前後に広島を訪れて被爆の実相について学んだり、平和交流を行ったりしています。そのテヘ

NPT 再検討会議に向けて「対談」



ラン平和博物館のご協力もあって、イランの加盟都市が増えていくのです。

現在、平和首長会議には世界160の国・地域から6490の都市に加盟していただいています。国内では1535都市となっています（2015年1月1日現在）。この加盟都市の力を結集して、2020年までの核兵器廃絶を目指したいと考えています。

高田 「核兵器廃絶」は、表現は悪いのですが、呪文のように唱えただけでは実現はできない。やはり工程表があり、期限がある、といったことは重要なことです。そういう目標がないと、只のスローガンになって実際に実現できない。そういうことではいけないですね。

NPT再検討会議に向けて

高田 今年、核軍縮と核不拡散、そして原子力の平和利用の問題について一堂に会して話し合うNPT再検討会議（5年に1回）が、4月から5月にかけてアメリカ・ニューヨークで開催されます。その場で、被爆地ヒロシマから世界に向けてメッセージを発信する必要性があると思います。平和首長会議の立

場からどのような取り組みがなされますか。

湯浅 NPT再検討会議では、これまでにない取り組みとして、「オールヒロシマ・ナガサキ」「オールジャパン」の考え方のもと、仮称ですが、『2015ヒロシマ・ナガサキアピール集会inニューヨーク』を開催しようと考えています。多くの広島・長崎の関係者や全国から生協など平和活動に取り組む団体の関係者が現地に行かれます。こうした方々をはじめ、被爆者の皆さん、国連や各国政府、世界のNGO関係者などできるだけ多くの人たちに参加を呼びかけたいと思っています。集会では、生協の代表の方にもスピーチをお願いします。最後に『2015ヒロシマ・ナガサキアピール』を採択して、世界に発信したいと考えています。

高田 5年前のNPT再検討会議では、そういったオールヒロシマ・ナガサキ、オールジャパンといったフレーズはありませんでした。それぞれの団体や組織が独自に国連に足を運んで、NGO活動をやっていました。それが2015年は、平和首長会議がこれだけの影響力を持ってきたこともあり、リーダーシップを発揮していただいで、

これまでにないようなニューヨークでの集会が開かれるということは画期的なことだと思います。

湯浅 核兵器により言語に絶する体験をした都市は、世界の中で広島・長崎以外にありません。被爆者の皆さんは、「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」という心の底からの願いを

制を構築するよう、世界の為政者に強く訴えかけたいと考えています。

高田 最後に、平和な世の中をつくっていくためには何がいちばん必要だと思いますか？
湯浅 それは、命を大切にすることではないですかね。人間の命です。目的を達成するために命を軽んじることが



世界に発信し続けていらつしています。ニューヨークの集会では、その被爆地の思いを被爆国である日本全体のものとして結集させたいと考えています。そして、一日も早く核兵器の脅しによる安全保障体制から脱却し、同じ人間家族の一員としての信頼関係に基づく安全保障体

あつてはなりません。かけがえない命を大切にするということが、平和につながる大事なことだと思います。
高田 2015年NPT再検討会議に向けての強い決意を伺いました。ありがとうございます。

NPT 再検討会議に向けて（広島県協同組合連絡協議会 IYC 特別研究会）



中国新聞社記者 金崎由美氏



活動報告②：広島県生協連福島守事務局長



活動報告①：NPO 法人 NGO ひろしま村田民雄理事長



主催者挨拶：広島県生協連 高田公喜専務理事

NPT再検討会議に向けて…

11月21日（金）広島市まちづくり市民交流プラザにおいて、広島県生協連が事務局をつとめる広島県協同組合連絡協議会 IYC 特別研究会の平和学習会を開催しました。学習会には、広島県や広島平和文化センター、広島県被団協、及び J A 広島中央会や生協から50名が参加。最初に2つの構成団体より活動報告を行いました。

次に記念講演として、中国新聞ヒロシマ平和メディアセンターの金崎由美記者より「核のない世界を目指して」2015年NPT検討会議に向けてをテーマに講演をいただきました。

2010年のNPT再検討会議を取材した記者の立場で、前会議をどのように見て感じ、また、その後4年間の世界の動き、10月に現地を取材された最新の情報など、2015年NPT再検討会議の注目する視点を踏まえた話を聞くことができました。

参加者からは「普段聞けないような、記者ならではの視点や最新情報を聞くことができ、と

ても勉強になった。」「私たちがこれから進める方向性について、改めて考えるいい機会となった。これを機にもっと学習したい」などの感想をいただきました。

2015年のNPT再検討会議は、他国に被爆地広島・長崎

から声を届けるまたとない機会であること、被爆者が直接メッセージを伝えることができる大切な機会である事を、金崎記者の講演を聞いて改めて感じると共に、被爆地広島からアプローチしていく活動の指針となりました。



〈2010年NPT再検討会議～ニューヨーク〉

特集2 広島豪雨土砂災害支援報告

【別 表】

《募 金 額》 1月5日現在 248 団体・個人 151,694,082 円

《募金の使途》

日 付	名 目	対 象	金 額 (円)
9/12	災害ボランティア活動支援金	広島市災害ボランティア本部	2,000,000
10/10	組織協力金	広島医療生協	2,000,000
11/20・2015/1/9	義援金 (1 回目、2 回目合計)	広島市	146,500,000
12/12	折り鶴カレンダー	広島市社会福祉協議会	1,134,000
2015/1/9	活動支援費	広島県生協連	60,082



松井市長 (右から3人目) へ募金贈呈 (2014年11月20日)



松井市長 (右) へ岡村会長理事より募金贈呈 (1月6日)

これからも被災地に寄り添って…
全国の生協の仲間から、1億5千万円を超える募金が寄せられました。

今回の災害は甚大な被害をもたらしたことから、生協として支援活動に取り組み、広島県生協連では被害状況を全国の生協へ情報発信するとともに、緊急募金口座を開設しました。

募金口座は12月26日まで開設し、1月5日現在、全国の生協 (43都道府県116生協) と128個人・4団体から、1億5169万4082円が寄せられました。寄せられた募金は、広島市を通じて被災者個人への義援金、広島市災害ボランティアセンター等の活動支援金

8月19日から20日未明にかけて広島市安佐南区・安佐北区を襲った豪雨・土砂災害。土石流・がけ崩れが166カ所発生し、住宅4769戸が被害に遭い、74名の方が亡くなりました。その内39名が生協の組合員さんとそのご家族です。現在も約700世帯の方が、自宅を離れて避難生活を送られています。犠牲となられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

発災直後、全国の生協からボランティア支援の問い合わせが寄せられました。

広島市への義援金は、直接松井広島市長へお渡しし、松井市長からは、「生協の皆さんには本当に感謝しています。これから本格的な復旧に取り掛かりますが、被災された方の心労は大変なもの。被災された方が1日でも早く安心して暮らせるように、皆様の善意の心とともにお届けします。」とお礼の言葉をいただきました。

として、充てさせていただきました。使途は別表のとおりです。広島県生協連に寄せられた募金以外も合わせると、全国の生協で2億円以上の義援金が広島市に送られたことになります。

広島市への義援金は、直接松井広島市長へお渡しし、松井市長からは、「生協の皆さんには本当に感謝しています。これから本格的な復旧に取り掛かりますが、被災された方の心労は大変なもの。被災された方が1日でも早く安心して暮らせるように、皆様の善意の心とともにお届けします。」とお礼の言葉をいただきました。

人々の支援に関しては、生協ひろしまは災害ボランティアセンターの運営スタッフを2名派遣。広島医療生協は全日本民医連、医療福祉生協連に支援を呼びかけ、全国から1600名を超えるボランティアを受け入れ、広島中央保健生協も協力して支援活動を行いました。また旧病棟を避難場所としても提供しました。

発災直後、全国の生協からボランティア支援の問い合わせが寄せられました。

をいただきましたが、被害が局地的であったことから、災害ボランティアは広島県内中心に募り、支援活動を行いました。

今後は復興支援後の支援活動のあり方や方法、行政でできないこと、民間が力を合わせてやることについて協議する場として、民間のNPO団体を中心としたネットワーク「広島市復興支援市民会議」を立ち上げ、生協ひろしまは連携して取り組みを進めています。

このたびの災害で、募金活動はじめ支援物資の提供、支援の問い合わせ等、被害にあった人地域に対する生協の仲間の温かい心遣いに本当に感謝いたします。生協って本当にいいね、と思いました。

阪神大震災や東日本大震災をはじめ、全国で発生する自然災害に対して、これからも全国の生協が力を合わせて、心を寄せ合って、手を差し伸べていけたらいいと思います。また、このたびいただいた、温かい支援に心より感謝申し上げます。同時に、いつかお返しをしたいと思っています。

特集3 福島視察報告



福島市米全袋検査場



分析器にかけるため野菜を漬けています



JA 福島県モニタリングセンターの簡易型分析器
(Nal シンチレーション検出器)



ど派手なブレーカー



被爆の測定機器を搭載したトラック

福島の今

福島は、風評被害からの信頼回復と、
子どもたち、お母さんたちの
精神面のフォローに
一生懸命取り組まれています。

福島市は福島市内で生産される全体的なお米の全袋検査を行っています。すべてのお米が検査され、出荷されますので安心です。また福島県生協連は、JA新ふくしまと連携して土壌スクリーニング（田畑の放射線量調査）を行い、その数は

確認しています。2013年度は2万9307検体を検査し、安全であることを確認しています。

信頼回復のために「福島産は汚染されている」などの風評被害から信頼を回復するために、JA新ふくしまでは、農産物の全品目モニタリング調査をおこなっています。平成24年4月にモニタリングセンターを開設し、31台の簡易型分析機（Nalシンチレーション検出器）と精密分析機（ゲルマニウム半導体検出器）を設置。

2013年度は2万9307検体を検査し、安全であることを確認しています。

福島では東日本大震災と福島第一原発の放射能漏れの影響から、長期間にわたって非常時の生活が続いています。いまだに立ち入りが制限されている地域があります。広島県生協連地域活性化研究会では、地域問題を考える中で、災害対策や緊急時への対応、被災後の生活支援は私たちの暮らしに直結する問題として、11月5日～6日、福島県生活協同組合連合会を訪問し、支援の取り組みを学び、被災地を視察しました。

子どもとお母さんの心のケア被災地域の子どもの保護者の中には、心身にストレスをかかえている方が少なくありません。週末や長期の休み期間中に、福島県内、県外（山形県等）の保養地にバスで向かい、のびのびと過ごしてもらおう企画や、他県の生協による受け入れ企画などが行われている「福島の子ども保養プロジェクト」。ストレスを癒してもらおう取り組みです。福島県猪苗代町（リゾートインばり）に拠点となる「冒険遊び場プレーパーク」があり、そこは森の中の広大な遊び場で、子どもたちに思う存分遊んでもらうところです。そこに「ブレーカー」というド派手なワゴン車が、ならこ浦さんから贈られました。子どもたちの喜ぶ

3万2000カ所を超え、安全性を調査しました。この取り組みには、県外の生協含め延べ361人のボランティアが参加し、安全性の確認だけでなく、県外の生協組合員・職員と、福島県内の生産者との相互理解を深められたようです。

また、安心して暮らすために、「食品の放射線測定器」「被爆の測定機器」を福島県生協連が取り組んだ「あんしん福島募金」で購入し、組合員が持ち込んだ食品を測定し、安全を確認しています。

福島を忘れない福島の課題は、①風評被害からの信頼回復（土壌スクリーニング、残留検査、放射線量検査、地産地消ネットワーク）、②精神面のフォロー（子ども保養プロジェクト、母と子の参加）、③避難区域の復興。その中で、福島県生協連の存在は大きい。JA新ふくしまや福島大学等、地域他団体との連携、日本生協連、全国の生協との連携、視察の受け入れ、ボランティア事務局等、大変な役割を担っています。

報告 広島県生協連 福島守事務局長

広島に住んでいる私達は、福島で起きていること、現状を知ることがほとんどできなくなっています。福島はまだまだたいへんな状況にあり、復興には長い年月が必要です。福島で起きていることを風物化させることなく、知ること、気にかけること、福島のことを忘れないことも支援の一つだと思います。これからもいろんな形で長く支援していきたいと思っています。

姿が浮かびます。お母さんたちの間では、避難しなかった人と、避難先から帰ってきた人との間で溝が生じたり、疎遠になったり、精神的に参っている方も少なくないようです。その方たちのケアも必要です。

協同組合まつり（日立造船因島生協）

はっさくん登場！

フットサル大会もあったよ。

11月16日(日)、因島大浜アメニティー公園特設会場にて、「平成26年協同組合まつり」が開催されました。生協模擬店、協力会販売、各イベント・ゲームの他に同公園内にて「第3回日立因島生協杯フットサル大会」が開催されました。今年は、ゆるきゃらグランプリで広島県第1位になった、因島のゆるきゃら「はっさくん」が、平谷尾道市長と村上因島商工会議所会頭と共に来場して、子供たちにも大人気！ 記念撮影に引っぱりだこでした。

（報告：日立造船因島生協 越智一正 常勤理事）



左から岡野理事長・平谷尾道市長・はっさくん・村上商工会議所会頭



はっさくんと子どもたち 大人気！



はっさくんと土生地区の皆さん



生協活動写真展示



ブラレールに興味しんしん



たこ焼き（弓削地区）



蒜山焼きそば（三庄地区）



府中焼き（オタフクソース）



うどん（土生地区）



海鮮焼き（重井地区）



優勝した因北チーム

日立因島生協杯フットサル大会
第3回を迎える低学年以下の日立因島生協杯フットサル大会は、元気にキックオフ。参加チームの皆さんは、元気にプレー！爽やかな感動で会場は包まれました。



乾物塩干（重井地区）

広島土砂災害支援募金コーナー
募金額：10,363円
善意の募金、ありがとうございました！

【成績発表】

優勝：因北 準優勝：瀬戸田 第3位：田熊
第4位：因島 第5位：弓削

広島大学霞キャンパス『ヴィオラ』オープン

キャンパスに花開いた新しい店舗



丸テーブルコーナーは語らいの場



天井が高く、開放的なダイニングホール



清潔感あふれる対面キッチン



オシャレ感覚で円形に並んだ書棚

今回紹介する霞会館がある霞キャンパスは、医歯薬の各学部と大学院、そして大学病院と原爆放射線医学研究所があり、学生教職員あわせて4千人以上が所属しています。

霞会館はキャンパス内の福利厚生施設として1981年に完成、2階に食堂、1階に書籍も扱う売店で営業開始しました。以来30年が経過する中で、学内人口の増加への対応や施設の老朽化対策が課題となっていました。4年前から大学と協議を重ね、半年間の改修工事を経て昨年5月にリニューアルオープンしました。

今回のリニューアルにあたり、柱としたコンセプトは、「食と食育を通じて健康な学生生活を保障」、「勉学と研究のサポート」、「キャンパス内における憩いと交流の場」、「バリアフリーの実現、誰もが利用しやすい施設」の4点です。

食堂の特徴としては、混雑緩和のために席数を増やしながらも食事しやすい環境にするために、テーブルの奥行きを従来より少し狭くしたり、従来は6人掛けのみだったものを2人掛け、4人掛け、丸テーブル、ソファ等とバリエーションとその配置についても工夫しました。ホール内はパーティションによって4つのエリアに区切ることができ、これにより通常営業しながらでも懇親会などのパーティ

ティーがしやすくなりました。また、営業終了後の夜間もホールの一部は学生向けフリースペースとして開放、自習する学生で賑わっています。朝食から夕食まで1日3食を食べていたできるようにメニューを工夫しています。

1階のショップは書籍を中心とした店づくりをしています。書籍コーナーには円形の書棚を配置しましたが、円の内部では落ち着いて本を選んでいただく空間を意図しています。食品関連は昼食時にご利用いただく商品を中心とした品揃えにしておき、食堂で製造した生協弁当も好評です。

リニューアルにあたり店舗の愛称を公募したところ、「viola（ヴィオラ）」に決定しました。

——医療人・それを目指すもの・その教育に携わるものとして、violaの花言葉のように「誠実」でありたい。また、violaはウィータ、ラテン語で「生」を感じさせます。「生命・生活」を尊び、何者にも「誠実」でありたいという願いを込めた名前です。

売店は「ヴィオラショップ」、食堂は「ヴィオラダイニング」と呼んでいます。オープン初日は綺麗になった店内を見て驚きと喜びの声にあふれました。学生教職員はもちろん、病院にいられた方々もご利用いただけました。ぜひ一度、お越しください。

（文責 吉山功一 広島生協専務理事）

消費者のつどい・広島県編集責任者懇談会

ダマサレンジャー登場！ 消費者のつどい2014

広島県と広島県消費者団体連絡協議会（以下広島県消団連）は、消費者団体の日頃の活動成果を発表する場と、消費者団体の活性化及び消費者団体相互の交流を図り、消費者啓発を推進することを目的に「消費者のつどい」を開催しています。

今年度は11月13日（木）にサテライトキャンパスひろしまで



主催者挨拶する川上広島県民生活部長



消費劇団ダマサレンジャーの寸劇



講演する住田裕子弁護士

「消費者のつどい2014」を開催しました。広島県内各自治体の担当者はじめ、消費者団体及び一般消費者150名が参加し学習・交流をしました。

川上俊幸広島県民生活部長と徳田洋子広島県消団連会長と主催者挨拶のあと、2つの団体から活動報告。呉市消費者協議会は消費劇団『ダマサレンジャー』の寸劇「オレオレ詐欺」「宝石の訪問買取」を演じ、消費者被害に遭わないように報告があり、J A広島県女性組織協議会からは、「地域の元気は女性部活動から」というテーマで活動報告がありました。

記念講演は、テレビでおなじみの住田裕子弁護士に、金融トラブル防止についてご講演いただきました。



中国新聞社宮田氏からの挨拶



懇談会の様子

広島県生協連では、10月31日、メルパルク広島において、広島県編集責任者会懇談会（マスコミ懇談会）を開催。

広島県編集責任者会のメンバーは、広島県内の主要な新聞社やテレビ局の支局長・報道制作局長クラス17名で構成され、

広島県編集責任者会懇談会（マスコミ懇談会）を開催



生協の説明をする高田専務理事

今回は13名の出席をいただきました。

懇談会は、最初に広島県生協連高田専務理事より生協の概要を説明し、次に8月20日広島豪

雨土砂災害支援の取り組み、折り鶴再生事業、2015年NP T再検討会議に向けた取り組み、広島県への要請など、直近の生協の活動を紹介し、生協への理解を深めていただきました。その後、交流を行いました。

懇談会の出席者からは、「最近、生協の記事が少ない。もっと積極的にマスコミへのリリースをしてほしい。」「記者との日常的な関係づくりを大切にしたい。」「また、「こういう取り組みを是非継続してほしい。」という意見がありました。

今後も交流をしていきたいと思えます。

【広島県編集責任者会】

社名	支社局	役職
朝日新聞社	広島総局	総局長
共同通信社	広島支局	支局長
産経新聞社	広島総局	総局長
山陽新聞社	広島支社	支社長
時事通信社	広島支社	支社長
中国新聞社		編集局長補佐
日本経済新聞社	広島支局	支局長
毎日新聞社	広島支局	支局長
NHK	広島放送局	放送部長
中国放送		報道制作局長
広島テレビ放送		報道制作局長
広島ホームテレビ		報道制作局長
広島FM放送		編成制作部長

【広島県生協連】

役職（県連）	名前	前職
会長理事	岡村 信	秀喜
専務理事	高田 公喜	
常務理事	難波 隆宏	
常務理事	盛谷 博文	
常務理事	岡野 龍広	
常務理事	横山 弘成	
理事	上田 久子	
理事	川本 信枝	

中堅職員研修会・理事会 報告

次代を担う生協職員の育成

中堅職員研修会

研修会

2014年11月28日、広島県

生協連は、会員生協の中堅職員を対象にした中堅職員研修会を開催しました。研修会の目的は、①生活協同組合の次代を担う中堅職員の育成。②組織のリリーダとして必要なマネジメント能力を得ること。中堅職員研修は初めての取り組みで、5生協15名が参加。参加者の構成は、年齢28歳～45歳、平均年齢35.5歳、生協歴4年～20年、平均10・9年、男性10名、女性5名が参加しました。

広島県生協連の高田専務理事より、「生協の事業・活動と社会的責任」をテーマに講義があり、①生協組織・事業・社会的役割について、②組織論・マネジメントについて、③社会人・生協職員としての心構え等、学びました。参加者からは、風通しの良い組織にするためにはどうすればいいか考える。改善提

案を積極的にする。今までやってきたことを当たり前のようにならぬが、固まった考え方をなくし、意識を変えなければならぬ等、前向きな意見が出されました。

午後のワーク・グループディスカッションでは、一般社団法人リエゾン地域福祉研究所丸山法子代表理事を講師に、リリーダの役割と行動、必要なマネジメントについて、インバスケット手法を用いて研修を行いました。参加者からは、仕事の優先順位を考えて、自分がやるべきことを決めて取り組むようにする。現場の声、状況を基に改善提案を実践する。といった決意と、普段話すことのない他生協の人や、他部署の人と関わり、自分がない視点、考え方を学ぶことができ、たいへん良かったという感想が出されました。

今回は15名の参加でしたが、もっとたくさんの次代を担う生協職員に参加していただけるように、研修は継続していきたいと思っています。



講義をする高田専務理事



研修をする講師の丸山氏



研修会の様子

2014年度第3回理事会報告

■日時 2014年12月3日
(水) 14時35分～16時30分

■場所 広島県生協連(第7ウエノヤビル) 3階会議室

■出席 20名中14名出席(理事17名中12名出席、監事3名中2名出席)

(出席理事) 岡村、高田、盛谷、岡野、横山、難波、高橋、斉藤、上田、川本、吉山、武田

(出席監事) 小泉、堀

□議決事項

以下の項目について資料に基づき提案説明を行い、全員異議なく承認決定した。

(第1号議案) 8・20広島豪雨土砂災害関連について

(第2号議案) 2014年度活動のまとめと2015年度活動方針(案)について

(第3号議案) 第2回常務理事会専決事項

1 他団体の公職承認の件

①農協改革に関する有識者意見交換会への派遣

②広島県営住宅管理等審議会委員

③平成26年度中国地方液化石油ガス懇談会委員

2 2014年度上期決算・監査報告

3 2015年新春トップセミナー及び新春役員交流会の開催について

4 被災者生活再建支援制度の

抜本的拡充を求める署名協力について

□協議・報告事項

各事項について資料に基づき説明を行い、協議の結果、全事項について確認した。

(第4号議案) 会員生協2014年度上期経営状況について

(第5号議案) 一般活動報告

1. 米国核実験に対する抗議文について

2. 2015年(平成27年)広島県への要請報告について

3. 広島県生協大会報告について

4. 広島県編集責任者会懇談会(マスコミ懇談会) 報告について

5. 介護保険制度改定に向けた行政訪問(中間報告)について

6. 各委員会活動報告(組織委員会、福祉・介護委員会、地域活性化研究会)について

7. 2014年度中堅職員研修会について

8. 2014年IYC特別研究会平和学習会について

9. 日本生協連中四国地連ニュースレター

10. HJC学習会(協同組合組織の危機打開に向けた学習会)のご案内について

委員会報告

第4回
組織委員会報告

開催日 12月11日(木)

会場

広島県生協連3階会議室

出席(敬称略)

越智(日立造船因島) 佃(広島県学校)、檀浦(広島県高校)、上田、戸田、森島(ひろしま)、田中(広島中央保健)、山本(広島県労済)、高田、福島、為政(広島県生協連)

【主な内容】

- 1 税と社会保障について学習(講師 高田専務理事)
- 2 広島豪雨土砂災害被害状況及び支援状況報告(中間報告)について。
高田専務理事より資料に基づき広島土砂災害の募金状況と生協の支援活動について報告があった。
- 3 家計簿調査報告について
福島事務局より2014年6月までの家計簿通信の調査(集約)から、4月以降の消費動向と消費税の影響等について報告があった。
- 4 2014年度の活動報告(中間報告)と2015年度活動方針(案)について
福島事務局より、「2014年度の活動報告(中間報告)と2015年度広島県生協連の活動骨子(案)」を報告があった。

5 2015ピースアクションinヒロシマ企画(案)について
協議

福島事務局より12月3日開催の「2015ピースアクションinヒロシマ第1回実行委員会」で確認した内容を報告し、企画について協議した。

第9回地域活性化研究会報告

開催日 11月25日(火)

会場

広島県生協連 3階会議室

出席(敬称略)

国本(広島市佐伯区長)、佐田尾(中国新聞社論説副主幹)、佐々木(広島修大教授、丸山リエン地域福祉研究所代表)、尾崎(日本生協連)、岡崎(生協ひろしま)、本浦(広島医療生協)、高成田(日本労働者協同組合連合会センター事業団本部長)、乃美(福山医療生協)、高田、上田、福島(広島県生協連)

【主な内容】

- 1 特別視察(福島県) 報告
佐田尾委員、上田委員、福島事務局より、特別視察(福島県)について資料に基づき報告があり、確認した。
- 2 地域活性化研究会報告書(骨子案)について協議
高田委員長より地域活性化研究会報告書(骨子案)について説明があり、協議を行った。

第3回福祉・介護委員会報告

開催日 11月20日(木)

会場

広島県生協連 3階会議室

出席(敬称略)

斉藤、本浦(広島医療生協)、岡崎、西谷(生協ひろしま)、高田、為政(広島県生協連)

【主な内容】

- 1 介護保険制度改定に向けた活動について進捗状況の確認を行った。
- ①自治体訪問の実施について(中間報告)
- 2 視察(ケーススタディ) 報告
- 3 ミドルマネジャー研修(アンケート集約) 報告
- 4 生協版地域包括センター構想について

2015ピースアクションin
ヒロシマ第1回実行委員会報告

開催日 12月3日(水)

会場 広島県生協連 3階会議室

出席(敬称略)

岡村、高田(広島県生協連)、難波(学校)、盛谷(広島中央保健)、岡野(日立造船因島)、横山、上田、川本、森島(ひろしま)、斉藤(広島医療)、高橋(高校)、吉山(広大)、山内、山田、阿久根(日本生協連)、福島、為政(広島県生協連)

【主な内容】

- 1 委員長・副委員長の互選
委員長に和田寿昭(日本生協連専務理事)、副委員長に岡村信秀(県連会長理事)を選任。
- 2 2015ピースアクションinヒロシマの企画について
- ①日程について
- ②企画テーマについて
・メインテーマ「継承と創造」は継続し、サブテーマを2015年の特徴を出す内容に変更することを確認した。
- ③虹のひろば企画について
・ステージの大枠の構成については事務局提案通り確認。
- ④分科会企画について
・新企画「子ども平和会議」について提案があり、承認された。
- ⑤推進体制について
・ワーキングチーム(虹のひろば、分科会)を組織委員中心に職員と組合員で組織し、企画を具体化していくことを確認。



被爆 70 年 今こそ世界に伝えよう

日々のことから

NHK 大型企画開発センター
ディレクター

夜久 恭裕
やく やすひろ

●プロフィール

1977 年生まれ。2000 年、NHK に入局。仙台、東京、広島勤務を経て、現在、大型企画開発センター、ディレクター。『里山資本主義』NHK 広島取材班として取材・制作を展開。医療・教育・戦争まで幅広く調査報道を手がける報道番組のエキスパート。著書に『原爆投下 黙殺された極秘情報』（NHK 出版）がある。

今年は、人類史上初めて原子爆弾が広島に投下されてから 70 年という大きな節目です。これまでの節目と圧倒的に違うのは、当時 10 歳前後の、ぎりぎり記憶がある世代の方々がすでに 80 代。「被爆を語れる人がゼロになる日」が、もう間近に迫っているという事実です。記憶の風化は待たないです。

その一方で今、広島は世界からかつてないほど注目されています。去年、海外の大手旅行サイトの口コミランキングで、原爆資料館が 2 位を獲得しました。その前年、2013 年はなんと 1 位。京都や奈良などの有名どころを抑えての快挙です。

これは広島にいてもあまり実感できないのですが、何が起きているのでしょうか。実は私のところにも今年、イギリスやフランスなど、海外の放送局が相次いで、被爆 70 年に向けて特集を組みたいと、共同制作を求めてきました。聞けば、世界的に「原爆投下とは何だったのか?」問い直す動きが広がっているというのです。というのも、先日のフランスでの新聞社襲撃事件をひも解くまでもなく、各地でテロが頻発し、どこにも安全な場所はないのではないかという

不安感が世界を覆っています。どうしてこんな世の中になってしまったのか、歴史の源をたどっていくうちに人々が行き着いたのが、激動の 20 世紀。とりわけ最大の悲劇の一つである原爆投下について、「もう一度見つめ直したい」「一生に一度は広島に足を運びたい」と考えるようになったのです。

これは、世界に向けて核廃絶を訴える、またとないチャン



は、ゆくゆくは、国民の間で、戦争を肯定しないまでも、否定もしない機運に繋がりがねません。

では、私たちは何をすればよいのでしょうか。答えは単純です。

あの日、きのこ雲の下で何が起きていたのか。その後、被爆者にどんな人生を歩ませることになったのか。被爆者の方々と同じようにというのは無理で

とに、どんな新しい事実が明らかになっていきます。

たとえば、2011 年の福島第一原発の事故後にわかに注目されるようになった、放射線の影響。これも長年の被爆者の協力による研究の結果、最近になって、「第 2 の白血病」とも言われる骨髄異形成症候群という病気が、被爆者の間に増えていることが証明されたばかり。低線量被爆や遺伝に至っては、そもそも影響があるのかどうかわからず、まだ確定していません。

1945 年 8 月 6 日、原爆投下の当日、人々がどこでどのように亡くなったのかということさえ、何も分かっていないのです。身内がそもそも死んだのかどうかも分からず、行方不明扱いのまま、戦後長らく帰りを待ち続けた遺族も多くいます。私自身、今はそうしたテーマで取材を続けています。

日ごろ漠然と捉えている原爆被害について、被爆者の方々の声に耳を傾け、具体的な事実一つ一つでもって世界に訴えていく。残り限られた時間のなかで、私たちがやるべきことはまだまだあるのです。



全労済の「生活保障設計運動」を、
あなたとご家族の最適な保障づくりに
お役立てください。
生命保障から損害補償まで取り揃えています。

全労済広島県本部（広島県労働者共済生活協同組合）
〒732-8505 広島県広島市東区曙 4-1-28

保障のことなら

全労済

全国労働者共済生活協同組合連合会

全労済は、営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、組合員の皆様の安心とゆとりある暮らしをめざしています。出資金をお支払いいただいて組合員になれば、各種共済を御利用いただけます。



平和とよりよき 生活をめざして

広島県生活協同組合連合会

〒730-0802 広島市中区本川町 2-6-11
第7ウエノヤビル 5F
TEL 082-532-1300 FAX 082-232-8100
E-mail : kenren.h@proof.ocn.ne.jp
URL : <http://hiroshima.kenren-coop.jp>

【編集室から】
6434人が亡くなった阪神・淡路大震災の20周年の日の翌朝、朝のテレビニュースを見ながら、コーヒを飲み、庭のモクレンの木に目をやる。来るべき春を待つたくさんの花芽をつけた枝に、数十羽の雀が陽光を浴び体をふくませてお互いに鳴き声を交わしている。睡蓮鉢には薄い氷が張っている。寒い朝だ。▼春が待ち遠しいが、春がくれば東日本大震災の日も4たび訪れる。東日本大震災では1万5861人の方が犠牲になり、行方不明者は2939名に及んだ。（2012年6月13日現在：警察庁まとめ）改めて災害の恐ろしさを実感し、そして日々の平安と「平和」を思う。▼人間の生命と尊厳は、災害に劣らず戦争や闘争によっても損なわれる。広島・長崎に投下された原子爆弾は、一瞬で数十万人の命を奪った。新春の平和対談で、湯浅平和文化センター常務理事の、「平和にとって何が必要ですか？」という問いに、「命を大切にすること」ということではないですか」といった答えが、心に重く響く。（Y）